

Title	Gallia 63号 会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2024, 63, p. 187-195
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95770
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

会員研究活動報告

(2023年1月1日～12月31日)

エリック・アヴォカ

- 論文
- ・ Les armes de la parole. L'éloquence révolutionnaire au risque de la violence (*Éloquences révolutionnaires et traditions rhétoriques (XVIIIe et XIXe siècles)*), Patrick Brasart, Hélène Parent, Stéphane Pujol (dir.), Classiques Garnier, p. 139-156, janvier)
 - ・ Satire politique et genres dramatiques pendant la Révolution française – comédie des *mœurs parlementaires*, *comédie de mœurs* parlementaire (*Gallia*, n° 62, p. 13-23, mars)
- その他
- ・ «Comment bien trahir les images ?», *Enseigner (par) la littérature dans les cours de français à l'université (Cahier n° 31, 日本フランス語フランス文学会, p. 13-14, mars).*

足立 和彦

- 共編著
- ・『対訳 フランス語で読む モーパッサンの怪談』(村松定史との共編著, 白水社, 139 p, 7月)
- 翻訳
- ・アンリ・トロワイヤ『モーパッサン伝』(水声社, 320 p, 3月)
- 論文
- ・モーパッサン、伝記の諸問題 (『フランス文学』, n° 34, 日本フランス語フランス文学会中国・四国支部, p. 47-60, 6月)
 - ・Maupassant dans l'enseignement secondaire : le cas du Japon (*Cahiers robinson*, n° 54, «Maupassant, un auteur pour la jeunesse ?», p. 47-56, 11月)
- 書評
- ・岩津航『レトリックの戦場 加藤周一とフランス文学』(丸善出版, 2021年) (『研究論集』, 日本フランス語フランス文学会中部支部, n° 46, p. 33-36, 2月)
- 雑誌記事
- ・モーパッサン、自由を求めて (第10-12回) (『ふらんす』, 1月号—3月号, 各回4頁, 1-3月)
- 口頭発表
- ・日常の語り手：マラルメの見るモーパッサン (関西マラルメ研究会 創立20周年記念シンポジウム «Rien n'aura eu lieu que le lieu», 神戸大学, 12月)

安達 孝信

- 論文
- ・ミシェル・ウエルベック『地図と領土』における郊外・機能主義建築批判再考 (『Limitrophe = リミトロフ』, 東京都立大学西山雄二研究室, n° 3, p. 61-72, 3月)
 - ・ラファエリとユイスマンス—『パリの人々』(1889)をめぐって— (『関西フランス語フランス文学』, n° 29, p. 27-38, 3月)
 - ・ゾラにおける修道院・女子寄宿学校の社会空間：『マドレーヌ・フェラ』における形成の場 (『フランス語フランス文学研究』, n° 120, p. 35-50, 3月)

- 書評
- ・アラン・コルバン編『雨、太陽、風—天候にたいする感性の歴史』、小倉孝誠監訳、小倉孝誠・野田農・足立和彦・高橋愛訳、藤原書店、2022年（日本ヴァレリー研究会ブログ、1月）
- 口頭発表
- ・ユイスマンスの印象派批評におけるブルジョワ批判と周縁擁護（第91回大阪大学フランス語フランス文学研究会、大阪大学、9月30日）
- 安藤 麻貴
- 論文
- ・アトリエ『プチ・ニコラ』（2）（野呂康・平松英夫・安藤麻貴共著、『フランス文学』第34号、日本フランス語フランス文学会中国・四国支部、p. 65-79、6月）
- 口頭発表
- ・アルベール・カミュの文学とアルジェリア（高知県立大学文化学部主催、国際日本学レクチャーシリーズ第63号、高知県立大学永国寺キャンパス、7月28日）
- 岩根 久
- 口頭発表・講演
- ・Pierre de Ronsard (1524-1585) の作品集としての *Les Amours* の変容—1552~1560—（テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ研究会、大阪大学、10月6日）
 - ・ロンサールの『恋愛詩集』1552年版と1553年版について—人文情報学的なアプローチを交えて—（第90回大阪大学フランス語フランス文学会（退職記念講演）、大阪大学、3月4日）
- 上江洲 律子
- 論文
- ・Les représentations différenciées du corps dans *La Condition humaine* (*Malraux vu du Japon. Roman, essai et arts*, Ayako Hata, Atsuko Nagai, Kazuaki Yoshimura et Hideki Yoshizawa (dir.), Éditions Classiques Garnier, «Rencontres», p. 45-52, janvier)
- 口頭発表
- ・アンドレ・マルローの現在性—論集刊行とその後—（畑亜弥子、木水千里、佐藤勇一との共同発表、日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ、九州大学、10月29日）
- 太田 晋介
- 論文
- ・もう一つの啓蒙の詩学：科学、進歩、近代、他者—電気を語るボンジュ（『フランス語フランス文学研究』、第123号、p. 85-101、8月）
 - ・ボンジュ詩学の虚軸としてのポーラン：「言葉の力」の主題を中心に（*STELLA*, n° 42, p. 351-376, 12月）
- 柏木 加代子
- エッセイ
- ・留学時代の思い出I特集《学ぶ》：あなただけに許されたもう一つの命（中村啓佑発行『花だより 人だより—ふみの里から』第52号、p. 46, 12月）

その他
(自訳書への
書評)

- ・留学時代の思い出Ⅱクリスマス特集：《バンドラの箱》(中村啓佑発行『花だより 人だより—ふみの里から』第53号, p.6-8, 12月)
- ・中村啓祐「初夏の風に頁を開こう!号『フロベールとジェンダー』」(『花だより 人だより—ふみの里から』第48号, p.2, 5月15日)(ジャンヌ・ベム著, 柏木加代子訳『フロベールと〈ジェンダー〉クィアナ家族から「新しい女」へ』水声社, 2022)
- ・森本悠人「フロベール研究の新しい地平」(『図書新聞』第3596号, 6月24日)(ジャンヌ・ベム著, 柏木加代子訳『フロベールと〈ジェンダー〉クィアナ家族から「新しい女」へ』水声社, 2022)

柏木 隆雄

論文

- ・会津八一 叱る教師の真実 (『大手前大学論集』第23号, 大手前大学, p.1-22, 7月)

評論

- ・松阪の知の系譜 本居宣長, 小津久足, 小津安二郎 (『夕刊三重新聞』1月7日より12月24日まで原則毎週土曜日以下の順に44回分掲載)
- 67. 歌紀行「よしのの山裏」
- 68. 旅は discover
- 69. 生涯に46冊の紀行
- 70. 宣長も歩いた吉野へ
- 71. 吉野から飛鳥・京・大阪
- 72. 貝原益軒の紀行の影響
- 73. 久足も携帯『和州巡覧記』
- 74. 『花染日記』で宣長と訣別
- 75. 花鳥日記は楽しげ
- 76. 本居学の呪縛から解放
- 77. 『柳桜日記』で宣長批判
- 78. 師を敬慕しつつ批判
- 79. 小津家蔵 久足の歌論書
- 80. 歌は自然を第一とす
- 81. 曲亭馬琴の知遇を得て
- 82. 久足の長尻 馬琴も迷惑
- 83. 馬琴と三人の松阪商人
- 84. 読本作家の樸亭琴魚
- 85. 樸亭琴魚は同じからず
- 86. 馬琴の厚遇受けた琴魚
- 87. 八犬伝, 疑問と作者回答
- 88. 青年久足, 馬琴を訪う
- 89. 篠斎, 久足宛て書簡膨大
- 90. 馬琴から巻紙の手紙
- 91. 往復書簡で馬琴に学ぶ
- 92. 馬琴は宣長を評価
- 93. 久足, 馬琴に和歌送る
- 94. 『八犬伝』に二つの長歌
- 95. 故信多先生のこと
- 96. 馬琴の久足への親近

97. 篠斎宛て書簡に久足評
98. 久足を大才子と揶揄
99. 馬琴の久足評, 揺れる
100. 馬琴, 久足の来訪心待ち
101. 「陸奥日記」を味わう
102. 最後の紀行は松阪近郊
103. 久足と安二郎の関係
104. 久足の甥の子, 安二郎
105. 日記に見る映画の淵源
106. 小津映画のルーツ
107. 受験に失敗。代用教員に
108. 現存する第7作「若き日」
109. 若き笠智衆 快活な役
110. 根は純真な「与太者」たち
111. 小津映画の『寅さん』

エッセイ

- ・小津のルーツに思いを馳せ（「富士」第189号, 「読者のひろば アカデミア編」, 富士精版印刷株式会社, p. 40, 3月）
- ・西原浩先生を悼む（「みおつくし」2023年4月号, 放送大学大阪学習センター発行, p. 8, 4月）
- ・小津映画について（「津市民文化」第17号, 「小津映画について識者へのアンケート」, p. 8, 7月）
- ・退任の辞（『赤壁』第95号, 三重同工会, p. 3, 9月）

口頭発表

- ・会津八一と吉野秀雄—奈良の古寺・古佛をどう詠んだか—（三重日仏協会・放送大学三重学習センター共催, 三重県総合文化センター文化会館, 4月9日）
- ・日本におけるバルザック全集の歴史と諸問題（関西バルザック研究会, 近畿大学, 8月26日）
- ・会津八一と奈良（奈良日仏協会主催「ガイドサークル」, 生駒コミュニティ・センター, 10月22日）
- ・「語り」の妙味—プロスベル・メリメ『カルメン』をめぐって（日本フランス語フランス文学会中部支部大会, 中部大学, 12月2日）

金崎 春幸

論文

- ・『聖アントワーンの誘惑』におけるキュベレーとアティス（*Gallia*, n° 62, p. 49-60, 3月）

書評

- ・Taro Nakajima, *Entre croyance et savoir. Les Figures religieuses de Flaubert*, Presses Universitaires de Strasbourg, 2021（*Cahier*, n° 31, 日本フランス語フランス文学会, p. 41-43, 3月）

川上 紘史

口頭発表

- ・視覚イメージに基づくパスカルの説得—「説得的な証拠によって神の印を見せる」(日仏哲学会シンポジウム「パスカル生誕 400 年に寄せて」, 大阪大学, 9月9日)

小坂 美樹

論文

- ・ジッド最初の劇作品『サウル』—サウル、メナルク、そしてオスカー・ワイルド (*STELLA*, n° 42, p. 83-94, 12月)

篠原 学

論文

- ・民主主義と小説 ミラン・クンデラ『不滅』における顔のモチーフ (*Gallia*, n° 62, p. 105-114, 3月)
- ・小説の技術とモラル: ミラン・クンデラの大江健三郎評(言語文化共同研究プロジェクト 2022, 『表象と文化 XX』 p. 59-68, 5月)

口頭発表

- ・ミラン・クンデラにおける「近代」の再解釈(第2回クンデラ研究会, 東洋大学, 2月24日)
- ・今日のフランス文学にみる家族史の現在(欧米言語文化学会第144回例会, 日本大学, 3月5日)
- ・ニコラ・プーヴィエ 空虚への旅(日本フランス語フランス文学会 2023年度春季大会ワークショップ「スイス・ロマンド文学へのまなざし」, 慶應義塾大学, 5月28日)
- ・「フランスを読む」#45, 46 ミラン・クンデラ作『存在の耐えられない軽さ』(YouTube, 11月16-17日)
- ・作品解説: Jean-Philippe Toussaint, *L'Échiquier* (第3回「日本の学生が選ぶゴンクール賞」ワークショップ, 関西日仏学院(京都), 11月30日)

高橋 愛

論文

- ・ゾラとドレフュスにおける真実を語る言葉—悪魔島の沈黙と取り戻した声— (*STELLA*, n° 42, p. 297-317, 12月)

武田 裕紀

論文

- ・デカルト『幾何学』と方法—『規則論』と『方法序説』に準拠して(『追手門学院大学共通教育論集』第1号, p. 19-43, 3月)

分担執筆

- ・『啓蒙思想の百科事典』(日本18世紀学会編, 丸善出版[本人担当: 「デカルト」], 1月)

口頭発表

- ・『ポール＝ロワイヤル論理学』第二版における記号の理論—アウグスティヌスを介して、デカルトとパスカルのはざままで—(PPP2024研究会, 岡山大学, 5月13日)

- ・パスカルにおける無限：経験，操作，秩序（日仏哲学会・パスカルシンポジウム，大阪大学豊中キャンパス，9月9日）
- ・『ポール・ロワイヤル論理学』における観念の明晰性と判明性について（京都哲学史研究会，オンライン，10月1日）
- ・17世紀に無限を正当化する—パスカルの事例（日本科学史学会西日本研究大会，香川大学，12月9日）
- ・思想史の中の『ポール・ロワイヤル論理学』—デカルトからロックまで，観念をめぐって—（十三研究会，大阪大学，12月27日）

寺本 成彦

エッセイ

- ・Hommage à Monsieur Hidehiro Tachibana (1949-2021) (*Cahiers Lauréamont*, n° 5, Classiques Garnier, p. 15-19, novembre)

中島 姫奈

口頭発表

- ・ドノワ夫人の *La Biche au bois* におけるデジレ姫の人物像～フェスロンの女子教育論の観点からみる～（2023年度日本フランス語フランス文学会関西支部大会，京都産業大学，12月2日）

永瀬 春男

共編訳

- ・『パスカル科学論集—計算機と物理学』（赤木昭三共編訳，白水社，10月，[本人担当：計算機関連文書，第一部]）

中村 啓佑

論文

- ・サーカスとフォラン—馬の時代— (*Gallia*, n° 62, 大阪大学フランス語フランス文学会, p. 25-33, 3月)

濱田 明

口頭発表

- ・ウッディ・ベイツコレクション：アメリカ人が集めたハーン（熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター／肥後銀行 連携セミナー「夏目漱石・小泉八雲について知ろう！！」，熊本大学附属図書館，11月4日）

エッセイ

- ・『アイラヴ漱石先生』を出版して（総合文化誌『KUMAMOTO』第42号，一般社団法人くまもと文化振興会，p. 170-173, 3月）

林 千宏

共著

- ・『実用フランス語技能検定試験 2023年度版 3級・4級・5級仏検公式ガイドブック』（フランス語教育振興協会編・発行，4月）

論文

- ・ロンサール『恋愛詩集』（1552-1553）とニコラ・ドニゾ（『表象と文化XX』，言語文化共同研究プロジェクト 2022，p. 25-35, 5月）

- 口頭発表 ・ L'ekphrasis architecturale dans La Bergerie de Remy Belleau (colloque international «L'ekphrasis architecturale dans la littérature du XVII^e siècle en France» organisé par Anne-Pascale Pouey-Mounou et Aya Iwashita, Université de Paris-Sorbonne, 17-18 novembre)
- エッセイ ・ 連載「フランス語ものづくし」(『ふらんす』白水社, 2-3月号)
第11回「靴」p. 1-2
第12回「劇場」p. 1-2
- 春木 仁孝
- 論文 ・ 現代フランス語における二次的な色彩を表わす表現について : couleur を中心に (『時空と認知の言語学 XII』「言語文化共同プロジェクト 2022」大阪大学大学院人文学研究科, web 版, 大阪大学学術情報庫 OUKA, gbkp_2022_j_040.pdf, p. 40-49, 5月)
- 平光 文乃
- 単著 ・ 『ブルースト 創造の部屋』(大阪大学出版会, 12月)
- 論文 ・ 『見いだされた時』冒頭に関する考察—タンソンヴィル滞在か、タンソンヴィルの部屋の描写か— (*Gallia*, n° 62, 大阪大学フランス語フランス文学会, p. 75-90, 3月)
- 書評 ・ 吉川一義編『ブルーストと芸術』(水声社, 2022) (*Cahier*, n° 32, p. 28-30, 日本フランス語フランス文学会, 9月)
- 三原 大輝
- 論文 ・ ブレーズ・パスカル『パンセ』「奇蹟2」の生成過程の検討—断章 425-428 の構想について (『待兼山論叢』, 文学編, 第56号, p. 95-111, 3月)
- 口頭発表 ・ Remarques sur l'interprétation des manuscrits des *Pensées* de Pascal, (le séminaire de commentaire perpétuel des *Pensées* (D. Descotes, L. Thirouin), Maison de Science de l'Homme, Clermont-Ferrand, 16 juin)
・ パスカル『パンセ』における断片的文書の草稿読解 (第91回大阪大学フランス語フランス文学研究会, 大阪大学, 9月30日)
- 山上 浩嗣
- 共著 ・ 『新・フランス語文法 (四訂版)』(大阪大学『新・フランス語文法』編纂部会 (井元秀剛・岡田友和・篠原学・高橋克欣・林千宏・三藤博・山上浩嗣・渡辺貴規子・Éric AVOCAT・Benjamin SALAGNON), 朝日出版社, 1月)
- 分担執筆 ・ 『啓蒙思想の百科事典』(日本18世紀学会編, 丸善出版 [本人担当]: 「モンテーニュ」p. 64-65), 1月)

- 口頭発表
- ・『フェイク・スペクトラム－文学における〈嘘〉の諸相』合評会コメント（国際編集文献学研究センター主催 出版記念イベント，成城大学，3月17日）
 - ・«Mourir lâchement et mollement» : Pascal face à la mort idéale selon Montaigne («Pascal, prophète et résistant», colloque du 400e anniversaire de Blaise Pascal, organisé par Dominique Descotes, Laurence Plazenet et Laurent Thirouin, Maison de la culture Clermont-Ferrand, 25 mars)
 - ・「だらしなくふんわりと死ぬこと」－モンテーニュの理想の死とパスカル（日仏哲学会2023年度秋季大会シンポジウム「パスカル生誕400年に寄せて」日仏哲学会主催・日本フランス語フランス文学会共催，大阪大学豊中キャンパス，9月9日）
 - ・モンテーニュの理想の死とパスカル－メメント・モリ，気晴らし，来世への希望（2023年度ラスタ教養大学言葉文化コース，伊丹ラスタホール（伊丹市立生涯学習センター），11月13日）
 - ・La pensée politique dans la 14^e Provinciale : entre Pascal et Nicole (Projet Pascal *Les Provinciales* (PPP) 2024, séance 5, en ligne, 18 novembre)
- 和田 章男
- 共著
- ・Proust, la littérature et les arts («Proust et la musique d'autrefois», p. 47-60, Honoré Champion, novembre)
- 論文
- ・ブルーストとセザール・フランクーエリートと大衆－(*STELLA*, n° 41, p. 173-190, 2022年12月)
 - ・La réception de la musique et l'«humanisme» chez Proust (*Bulletin d'informations proustiennes*, n° 52, p. 193-203, octobre 2022)
- 書評
- ・『ブルーストの音楽』－ブルーストと音楽をめぐる最新研究の動向 (*STELLA*, n° 40, p. 83-92, 2021年12月)
- 口頭発表・講演
- ・『失われた時を求めて』における音の風景－「パリの物売りの声」とオペラ（シンポジウム「文学と音楽のポリフォニー－近現代のフランスオペラをめぐる」，青山学院大学総合研究所共同研究プロジェクト「19・20世紀のフランス文学とオペラ」，青山学院大学，1月21日）
 - ・『失われた時を求めて』におけるオペラ風景（第90回大阪大学フランス語フランス文学会研究会（退職記念講演），大阪大学，3月4日）
- 涌井 萌子
- 論文
- ・レ枢機卿の英雄像－『ジャン＝ルイ・ド・フィエスク伯爵の陰謀』を例に－ (*Gallia*, n° 62, p. 3-12, 3月)
 - ・匿名政治パンフレットの計量的分析：「レ枢機卿のマザリナード」の帰属検証（テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ2022, p. 41-58, 5月）

- 口頭発表
- ・匿名政治パンフレットの計量的分析—「レ枢機卿のマザリナード」の帰属検証—(大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト, オンライン, 3月10日)
 - ・レ枢機卿『フィエスク伯ジャン＝ルイの陰謀』における理想的人物像—コルネイユ、マキャヴェリとの比較から—(日本フランス語フランス文学会秋季大会, 九州大学, 10月28日)
 - ・デジタルヒューマニティーズとマザリナード—「レ枢機卿のマザリナード」の計量的分析による帰属検証—(日本フランス語フランス文学会関西支部大会, 京都産業大学, 12月2日)
- 渡辺 貴規子
- 論文
- ・大正初期における翻訳少女小説の—様相—エクトール・マロ原作『家なき娘』の初の邦訳をめぐる(言語文化共同研究プロジェクト2022,『言語文化の比較と交流10』, p.34-44, 5月)
- 口頭発表
- ・大正初期の少女雑誌『新少女』における西洋文化の受容—フランスに関する記事を中心に—(日本児童文学学会第62回研究大会, 武蔵野大学, 11月19日)
- ポスター
発表
- ・明治時代の児童向け読み物におけるジャンヌ・ダルクの伝記(第8回大阪大学豊中地区研究交流会「知の共創」, 大阪大学, 12月8日)
 - ・連載「対訳で楽しむ『家なき子』」(『ふらんす』白水社, 4-9月号)
 - 第1回「対訳で楽しむ『家なき子』①」/コラム「19世紀フランス児童文学の隆盛と『家なき子』の誕生」p.48-53
 - 第2回「対訳で楽しむ『家なき子』②」/コラム「『家なき子』の教育とフランスの初等教育」p.38-43
 - 第3回「対訳で楽しむ『家なき子』③」/コラム「明治時代の二つの翻訳」p.38-43
 - 第4回「対訳で楽しむ『家なき子』④」/コラム「家族の描写と『社会問題』批判」p.38-43
 - 第5回「対訳で楽しむ『家なき子』⑤」/コラム「児童の権利と『親権』の問題」p.38-43
 - 第6回「対訳で楽しむ『家なき子』⑥」/コラム「大団円に込められた平和主義」p.38-43
 - ・連載「中級者向けヤングアダルトの世界」(『ふらんす』白水社, 8月)
 - 第5回「フランスの元祖少女小説セギュール夫人『ちいさな淑女たち』(1858年)」p.30-31